

<茶> センチュウ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディ・トラベックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

<茶> チャノホコリダニ

1. 合成ピレスロイド剤を散布すると、チャノホコリダニが多発することがある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
カスケード乳剤	I:15	摘採7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布
サンマイトフロアブル	I:21A	摘採14日前まで	2回以内	散布
スターマイトフロアブル	I:25A	摘採7日前まで	1回	散布
ダニゲッターフロアブル	I:23	摘採7日前まで	1回	散布
ダニトロンフロアブル	I:21A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	摘採14日前まで	1回	散布

<茶> カンザワハダニ

- 近年、多くの農薬に対して抵抗性を獲得したケナガカブリダニの密度が高くなり、カンザワハダニの密度が低く抑えられている。
- 防除は発生の有無を確認し高密度になる前に行う。
- 4月上旬～5月上旬に凍霜害があった後に多発した場合は、薬剤の摘採前日数に注意し早期防除に努める。
- 同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を多用することは感受性の低下をまねくので、薬剤の選択に注意する。
- 粘着くん液剤は残効性が無いので多発時に使用しない。5～7日おき連続散布により防除する。
- バロックフロアブルは遅効的なので春期の使用に適する。
- バロックフロアブル散布前14日～散布後7日以内のコサイドボルドーの散布は、殺ダニ効果を低下する恐れがあるため避ける。
- ダニゲッターフロアブルは成虫に対する効果が低い地域があるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
カネマイトフロアブル	I:20B	摘採7日前まで	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布
スターマイトフロアブル	I:25A	摘採7日前まで	1回	散布
ダニゲッターフロアブル	I:23	摘採7日前まで	1回	散布
ダニコングフロアブル	I:25B	摘採7日前まで	1回	散布
ダニサラバフロアブル	I:25A	摘採7日前まで	2回以内	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
バロックフロアブル	I:10B	摘採14日前まで	1回	散布
マイトコーネフロアブル	I:20D	摘採14日前まで(但し、遮光する栽培では遮光開始14日前まで)	1回	散布
ミルベノック乳剤	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
粘着くん液剤		摘採前日まで	-	散布

<茶> チャノガサビダニ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
カスケード乳剤	I:15	摘採7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布
サンマイトフロアブル	I:21A	摘採14日前まで	2回以内	散布
ダニゲッターフロアブル	I:23	摘採7日前まで	1回	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	摘採14日前まで	1回	散布

<茶> チャノキイロサミウマ

- 薬剤の効果が低下している地域がみられる。同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を多用することは感受性の低下をまねくので、RACコードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
- 合成ピレスロイド剤は地域によっては散布後にカンザワハダニやチャノホコリダニが多発することがあるので注意す
- カスケード乳剤はキチン合成阻害剤で遅効性である。
- グレーシア乳剤は、天敵類に影響があるので使用に際しては注意する。
- ダントツ水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤はRACコードが同じ (IRAC: 4A) 薬剤であるが、すでに効果が低下している地域があるので注意するとともに、これらを連用しないよう努める。なお、アルバリン顆粒水溶剤とスタークル顆粒水溶剤は名称が異なるが、同一薬剤である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	摘採7日前まで	1回	散布
オルトラン水和剤	I:1B	摘採45日前まで	1回	散布
カスケード乳剤	I:15	摘採7日前まで	2回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	摘採7日前まで	1回	散布
グレーシア乳剤	I:30	摘採14日前まで	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布

コルト顆粒水和剤	I:9B	摘採7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
スピノエースフロアブル	I:5	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布
テルスター水和剤	I:3A	摘採14日前まで	2回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	摘採14日前まで	1回	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	摘採14日前まで	2回以内	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	摘採7日前まで	2回以内	散布

<茶> チャノトリヒメコハイ

1. 一番茶摘採後から10月中旬ころまで間断なく発生が見られるが、特に二、三番茶芽の開葉期と秋芽に発生が多いのでこの時期に防除する。
2. 同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を多用することは感受性の低下を招くので、RACコードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
3. ダントツ水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤はRACコードが同じ（IRAC：4A）薬剤であるが、すでに効果が低下している地域があるので注意するとともに、これらを連用しないよう努める。なお、アルバリン顆粒水溶剤とスタークル顆粒水溶剤は名称が異なるが、同一薬剤である。
4. カスケード乳剤は、天敵類に影響があるので使用に際しては注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	摘採7日前まで	1回	散布
オルトラン水和剤	I:1B	摘採45日前まで	1回	散布
カスケード乳剤	I:15	摘採7日前まで	2回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	摘採14日前まで	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	摘採7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	摘採14日前まで	1回	散布

<茶> コカンアブラムシ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	摘採7日前まで	1回	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> チャクゴナシラミ

1. 年間4回発生し、成虫のピークは5月上旬、7月中旬、8月下旬～9月上旬、10月中旬～下旬である。
2. 越冬密度を下げることで春以降の密度抑制に重要であり、マシン油乳剤を秋整枝後（10月下旬～11月上旬）と初春（1月下旬～3月上旬）の2回散布すると効果的である。
3. マシン油乳剤は赤焼病の発生を助長する可能性があるため、赤焼病の発生が懸念される場合はマシン油乳剤散布の1週間前に銅剤を散布する。
4. 春以降の防除は、成虫発生ピークの10日～2週間後に1～2齢幼虫を対象に薬剤散布を行う。
5. 幼虫はすそ葉に多く寄生しているため、薬剤防除を行う前にすそ刈りを行って幼虫密度を下げる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
アブロードエースフロアブル	I:16・I:21A	摘採14日前まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダニゲッターフロアブル	I:23	摘採7日前まで	1回	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	摘採14日前まで	1回	散布
ラビサンスプレー	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
ラビサンスプレー	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布

<茶> カイガラムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロードエースフロアブル	I:16・I:21A	摘採14日前まで	2回以内	散布

<茶> クワシロカイガラムシ

1. ブルートMCは成虫越冬期に使用し、他の薬剤はふ化幼虫発生期に使用する。
2. ふ化幼虫に対する防除は、世代が進むに従い発生期間が長くなり防除が困難となるため、第1世代の防除が重要である。
3. 粘着トラップでふ化幼虫発生調査を行う場合は、捕獲虫数のピークのおおよそ2～5日後が薬剤散布適期である。
4. 寄生枝の採取によるふ化状況調査を行う場合は、おおよそ半数以上の卵がふ化している卵塊を持つ雌の数を調査し、生存する雌全体に占める割合が60～90%となる時期が薬剤散布適期である。
5. 枝、幹に薬液が十分にかかるよう1000 μ l/10a（成木園）を散布する。なお、突っ込み型噴口又は、アーチ型噴口などを用いて散布する。
6. 効果が低下する恐れがあるので、同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を連用しない。RACコードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
7. マシン油乳剤は、商品により散布時期、散布濃度が異なるので使用前に説明書をよく読む。
8. マシン油乳剤については、摘採前日数を28日以上空けるようにする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	I:UNM/F:NC	4月～9月	-	散布
アタックオイル	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	摘採7日前まで	2回以内	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布
プルートMC	I:7C	1月～3月(但し、一番茶摘採30日前まで)	1回	散布
ラビサンスプレー	I:UNM/F:NC	5月～9月	-	散布
ラビサンスプレー	I:UNM/F:NC	10月～3月	-	散布

<茶> ツマグロアオカスカメ

1. 一番茶期から発生する地域と二番茶以降に発生する地域とに分かれるので、各地域の発生型を確認して防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	摘採7日前まで	1回	散布
キラップフロアブル	I:2B	摘採7日前まで	1回	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	摘採7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ロディー乳剤	I:3A	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> ナガチャコガネ

1. 防除は茶園全体を対象とするのではなく、被害の出た場所とその周辺部で行う。
2. フォース粒剤の防除対象は主に成虫であり、成虫発生初期の6月上中旬に処理する。処理後は必ず土壌混和を十分行

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フォース粒剤	I:3A	成虫飛来初期からふ化幼虫期(但し、摘採7日前まで)	1回	雨落ち部土壌混和

<茶> ナガチャコガネ幼虫

1. 防除は茶園全体を対象とするのではなく、被害の出た場所とその周辺部で行う。
2. スミチオン乳剤の秋の処理時期は、10月下旬から11月下旬である。この時期に幼虫は地表近くに上がってくるので、幼虫が地表から20cmまでの深さに多く見られたら適期と判断する。本剤は降雨後に処理するのが適当である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤70	I:1B	摘採90日前まで	1回	土壌灌注

<茶> ナガチャコガネ成虫

1. 成虫発生盛期に処理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤70	I:1B	摘採21日前まで	1回	散布
テップン液剤	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> マダラカサハラムシ

1. 8～9月中旬に被害の発生した場所の叩き落とし調査を行い、成虫の寄生を確認したら速やかに防除を行う。
2. グレーシア乳剤は、天敵類に影響があるので使用に際しては注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
エクシレルSE	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
グレーシア乳剤	I:30	摘採14日前まで	1回	散布
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
モスピランSL液剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> チャノコカクモンハマキ

1. 成虫発生最盛日～10日後が散布時期となる。最盛日は年によって異なるので誘蛾灯、フェロモントラップでの誘殺消長調査の結果を参考にする。
2. 同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を多用することは感受性の低下をまねくので、RACコードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
3. 脱皮促進系のファルコンフロアブルに対して抵抗性の発達している地域がある。
4. ハマキコン-Nは交信攪乱剤である。使用上の注意事項は「生物的防除法—交信攪乱剤(性フェロモン)による防除法」の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
エクシレルSE	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
サムコルフフロアブル10	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
スピノエースフロアブル	I:5	摘採7日前まで	2回以内	散布
ゼンターリ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布

テッパン液剤	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ハマキ天敵	I:31	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ファルコンフロアブル	I:18	摘採7日前まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
マッチ乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
ハマキコン-N		成虫発生初期～終期		本剤を枝にかけるまたはロープ状製剤の場合、支柱等を立て、対象作物の上部に張り渡す。

<茶> チャハマキ

1. 成虫発生最盛日～10日後が散布時期となる。最盛日は年によって異なるので誘蛾灯、フェロモントラップでの誘殺消長調査の結果を参考にする。
2. 同一薬剤、あるいはRACコードが同じ薬剤を多用することは感受性の低下をまねくので、RACコードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
3. ハマキコン-Nは交信攪乱剤である。使用上の注意事項は「生物的防除法－交信攪乱剤（性フェロモン）による防除法」の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
エクシレルSE	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
サムコルフロアブル10	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
スピノエースフロアブル	I:5	摘採7日前まで	2回以内	散布
ゼンターリ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布
テッパン液剤	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ハマキ天敵	I:31	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ファルコンフロアブル	I:18	摘採7日前まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
マッチ乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
ハマキコン-N		成虫発生初期～終期		本剤を枝にかけるまたはロープ状製剤の場合、支柱等を立て、対象作物の上部に張り渡す。

<茶> チャノボガ

1. 三角巻葉混入率が3%以下であれば品質に影響しない。防除は三角巻葉を作る前に行う。
2. 萌芽～開葉期と成虫の発生期が合致すると被害が大きくなる。
3. グレーシア乳剤は、天敵類に影響があるので使用に際しては注意する。
4. マッチ乳剤、ノーモルト乳剤、カスケード乳剤は脱皮阻害剤で、遅効的であるので、卵期に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	摘採7日前まで	2回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	摘採14日前まで	1回	散布
サブリーナフロアブル	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
サムコルフロアブル10	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントロンフロアブル	I:21A	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布
ノーモルト乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	摘採14日前まで	2回以内	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	摘採7日前まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	摘採7日前まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
マッチ乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
モスピランSL液剤	I:4A	摘採7日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> シャクトリムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	摘採7日前まで	2回以内	散布

フェニックスフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
-------------	------	---------	----	----

<茶> ヨモギエダシヤク

1. 発生初期の若齢幼虫期の防除に努める。
2. ノーモルト乳剤、マッチ乳剤、ファルコンフロアブルは遅効性である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	摘採7日前まで	1回	散布
エクシレルSE	I:28	摘採7日前まで	1回	散布
グレーシア乳剤	I:30	摘採14日前まで	1回	散布
サムコルフロアブル10	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
スピノエースフロアブル	I:5	摘採7日前まで	2回以内	散布
ゼンターリ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ディアナSC	I:5	摘採前日まで	1回	散布
テッパン液剤	I:28	摘採3日前まで	1回	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採前日まで)	-	散布
ノーモルト乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
ファルコンフロアブル	I:18	摘採7日前まで	2回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	摘採7日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> チャドクガ

1. チャドクガ幼虫は5～6月及び7～8月に発生する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エスマルクDF	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
スピノエースフロアブル	I:5	摘採7日前まで	2回以内	散布
トクチオン乳剤	I:1B	摘採21日前まで	1回	散布
バシレックス水和剤	I:11A	発生初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
フェニックスフロアブル	I:28	摘採7日前まで	1回	散布

<茶> 赤焼病

1. 赤焼病は幼木園での発生が多いが、成木園でも多発生することがある。
2. 傷口から感染しやすいため、秋整枝時及び春整枝時や秋の台風、春先の強い風雨は感染に適する。
3. 凍害は発生を助長する要因となる。また、マシン油乳剤を散布した園で発症が激しくなることがある。
4. 常発園や発生が予想される園では2月上～中旬、3月上～中旬に2回薬剤散布する。しかし、感染期間が長いので、歴史的な防除では十分な効果が得られない場合が多い。高い防除効果を得るには、初発を確認したら速やかに銅を含む殺菌剤を散布し、その後発病状況をみながら追加防除する。幼木園は防風措置をする。
5. カスミンボルドーと銅ペーパーシン水和剤は名称が異なるが、同一薬剤であるので、使用回数に注意する。
6. 銅剤は1か月以内に連続散布すると成葉に小黑点の葉害を生じることがある。また、オイルとの混用は葉害を助長することがある。但し、茶樹への影響はほとんどない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ICボルドー66D	F:M01(M)	最終摘採後	-	散布
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
銅ペーパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
クミガードSC	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
サンボルドー	F:M01(M)	摘採21日前まで	-	散布
スターナ水和剤	F:31(A4)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
フジダーLフロアブル	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、摘採14日前まで)	-	散布

<茶> 網もち病

1. 網もち病菌の潜伏期間は約1か月で新芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。
2. 三番茶を摘採しない茶園では三番茶芽の生育期、三番茶を摘採する園では秋芽の生育期に薬剤散布する。
3. 銅剤、ダコニール1000は保護剤なので萌芽～1葉開葉期に予防的に散布する。
4. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
5. ラリー水和剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、スコア顆粒水和剤は感染後の治療効果に優れるが、これらはRACコードが同じ (FRAC: 3 (G1)) 薬剤であり、耐性菌を生じやすいので連用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
インダーフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
コサイド3000	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布

ラリー水和剤	F:3(G1)	摘採14日前まで	2回以内	散布
--------	---------	----------	------	----

<茶> 褐色円星病

1. 緑斑症状から褐色円星病に移行するが、緑斑症状でとどまる場合が多い。病葉は越冬後の一番茶芽の萌芽期前後から徐々に落葉する。
2. 全ての茶期の葉に発生するが、越冬葉の主体となる茶期の葉への感染に対する防除に重点をおく。
3. 病原菌の潜伏期間は約1か月で、多少硬化した葉にも感染が可能である。
4. 防除適期は新芽の出開き後から硬化初期である。新芽生育初期のみの防除では十分な効果が得られない場合がある。
5. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
6. スコア顆粒水和剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブルは感染後の治療効果に優れるが、これらはRACコードが同じ (FRAC : 3 (G1)) 薬剤であり、耐性菌を生じやすいので連用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
インダーフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布

<茶> 黒葉腐病

1. 二、三番茶期に多雨多湿条件が続くと発生しやすい。
2. 病原菌は菌糸でまん延し、新葉が黒色に腐敗する。
3. 晴天が続くと病勢は自然に治まるので、防除の必要はない。
4. 発生の恐れがある園では予防的に薬剤を散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	摘採7日前まで	1回	散布
ナリアWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	摘採7日前まで	2回以内	散布

<茶> 新梢枯死症(輪斑病菌による)

1. 新梢枯死症は輪斑病菌が萌芽から開葉期にかけて、包葉などが脱落したときにできる傷口から感染する。
2. 摘採されない新梢での発生が目立つが、摘採される新芽でも摘採後に残った枝が全身枯死する症状となって現れ、二番茶摘採後に多発することがある。
3. 高い防除効果を得るには萌芽期と2葉開葉期の2回散布が必要である。
4. 輪斑病が多発した茶園で発生しやすいので輪斑病の防除を徹底する。
5. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
6. アミスター20フロアブルは浸透性を高める展着剤を加用すると、薬害を生ずる場合がある。また、新梢枯死症の項のストロビーフロアブル、フリントフロアブル25とRACコードが同じ (FRAC : 11 (C3)) 薬剤であり、これらは耐性菌が発生しやすいので使用は年1回とする。
7. カスミンボルドーとカップーシン水和剤は名称が異なるが、同一薬剤であるので、使用回数に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	摘採14日前まで	3回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
コサイド3000	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
フロンスайдSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布

<茶> 新梢枯死症

1. 病害の特徴や防除方法は新梢枯死症 (輪斑病菌による) の項を参照。
2. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
3. ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は浸透性を高める展着剤を加用すると、薬害を生ずる場合がある。また、新梢枯死症 (輪斑病菌による) の項のアミスター20フロアブルとRACコードが同じ (FRAC : 11 (C3)) 薬剤であり、これらは耐性菌が発生しやすいので使用は年1回とする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ストロビーフロアブル	F:11(C3)	摘採10日前まで	3回以内	散布
テブロスフロアブル	F:U16(U)	摘採14日前まで	2回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	摘採7日前まで	1回	散布
フリントフロアブル25	F:11(C3)	摘採14日前まで	2回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	摘採7日前まで	2回以内	散布

<茶> 白紋羽病

1. ディ・トラペックス油剤は、被害株とその隣接している株を掘り取り、その跡地に施用する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディ・トラペックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

<茶> 炭疽病

1. 炭疽病は新芽の生育時に雨が多いと発生しやすい。
2. 感染期間は新芽の萌芽～出開き頃までで、1.5～2葉期が最も感染を受けやすい。
3. 摘採する新芽では感染しても遅摘みしない限り摘採までに発病することは少ない。
4. 二番茶摘採後のせん枝を行うことで、湿度の高い梅雨時期の芽の生育を回避して発病を抑制できる。
5. 三番茶不摘採園では三番茶芽生育期、三番茶摘採園では秋芽生育期の防除に重点を置く。

6. 高い防除効果を得るには萌芽～開葉期と2～3葉期（7日程度の間隔）の2回散布が必要であり、多発地帯ではさらに追加散布が必要な場合がある。
7. 銅剤、ダコニール1000、フロンスайдSCは萌芽～開葉期に予防的に散布する。
8. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
9. トリフミン水和剤、スコア顆粒水和剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、サンリット水和剤は感染後の治療効果に優れるが、これらはRACコードが同じ（FRAC：3（G1））薬剤であり、耐性菌を生じやすいので連用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
インダーフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
クミガードSC	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
サンボルドー	F:M01(M)	摘採21日前まで	-	散布
サンリット水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	1回	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	摘採14日前まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	摘採7日前まで	2回以内	散布
フロンスайдSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ミギワ20フロアブル	F:52(A5)	摘採7日前まで	2回以内	散布

<茶> 苗根腐病

1. 苗根腐病は、さし木床で発生する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディ・トラベックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

<茶> 灰色かび病

1. 灰色かび病は11～12月と2～4月にかけて発生する。
2. 病原菌は初め花に感染し、感染花から葉や芽に蔓延することが多い。
3. 開花期以降に湿潤な日が多くなると発生しやすく、着花数が多い茶園ほど発生が多くなる。
4. 防除時期は開花の盛期～終期を中心に、病勢が進行する前に予防的に薬剤を散布する。
5. 感染期間が長い場合1～2回の薬剤防除では不十分な場合がある。花芽分化期（7月～8月）に乾燥すると花芽が着きやすくなるので、かん水を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フロンスайдSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	摘採21日前まで	2回以内	散布

<茶> もち病

1. もち病は県北部の中山間地で発生が多い。主として二番茶芽と秋芽に発生するが、冷夏の年には三番茶芽にも多発することがある。
2. 病原菌感染後の潜伏期間は約10日で、新芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。
3. 病原菌は担子胞子が越冬芽に潜入り越冬する。前年の秋芽に多発した茶園では、一番茶萌芽前の銅剤散布により一番茶芽での発生を抑制できる。
4. 二番茶以降の新芽生育の防除は萌芽期前後が重要で、萌芽期前は保護殺菌剤、萌芽期以降は治療効果があるDMI剤が有効である。
5. 銅剤、ダコニール1000は保護殺菌剤である。
6. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
7. トリフミン水和剤、ラリー水和剤、スコア顆粒水和剤、オンリーワンフロアブル、サンリット水和剤、インダーフロアブルは感染後の治療効果に優れるが、これらはRACコードが同じ（FRAC：3（G1））薬剤であり、耐性菌を生じやすいので連用しない。
8. ナリアWDGは、FRAC：7（C2）の成分と同：11（C3）の成分の混合剤で、治療効果があるが耐性菌が発生しやすい。使用回数は他のFRAC：11（C3）の薬剤と合わせて年1回とする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、摘採7日前まで)	-	散布
インダーフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
クミガードSC	F:M01(M)	摘採前日まで	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
サンボルドー	F:M01(M)	摘採21日前まで	-	散布
サンリット水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	1回	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	摘採7日前まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	摘採14日前まで	-	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	摘採14日前まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	摘採7日前まで	2回以内	散布

フジドーLフロアブル	F:M01(M)	発病前～発病初期(但し、 摘採14日前まで)	-	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布
ラリー水和剤	F:3(G1)	摘採14日前まで	2回以内	散布

<茶> 輪斑病

1. 摘採機等によってできた葉や茎の傷口に病原菌が付いて感染、発病する。このため摘採直後の散布が最も効果が高く、時間がたつにつれて効果は低下する。
2. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
3. カスミンボルドーと銅パーシン水和剤は名称が異なるが、同一薬剤であるので、使用回数に注意する。また、耐性菌を生じやすいので連用しない。
4. アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25は浸透性を高める展着剤を加用すると、薬害を生ずる場合がある。また、これらはRACコードが同じ (FRAC : 11(C3)) 薬剤であり、耐性菌が発生しやすいので使用は年1回とする。
5. ファンタジスタもFRAC : 11(C3)に属するので、連用はしない。
6. ニマイバー水和剤は、RACコード (FRAC : 11(C3)) の薬剤に対する耐性菌が広まっている場合に使用する。なお、年1回の使用を遵守する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	摘採14日前まで	3回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
銅パーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	摘採14日前まで	2回以内	散布
ストロビーフロアブル	F:11(C3)	摘採10日前まで	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	摘採10日前まで	1回	散布
テブロスフロアブル	F:U16(U)	摘採14日前まで	2回以内	散布
ニマイバー水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	摘採14日前まで	1回	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	摘採7日前まで	1回	散布
フリントフロアブル25	F:11(C3)	摘採14日前まで	2回以内	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	摘採14日前まで	1回	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	摘採7日前まで	2回以内	散布